

代表質疑

3月1日の本会議で、各交渉会派（所属議員3人以上の会派）の代表者5人が平成31年度予算について質疑を行いました。要旨は次のとおりです。

市庁舎建て替え 日本郵便株と協定を結ぶな

伊沢 けい子 議員



議員 市は市庁舎・議場棟等の建て替えについて、三鷹郵便局との一体的な整備に向け、日本郵便株式会社と基本協定を結ぼうとしている。20億円かけて建て替えることに、市民は全く合意できておらず、協定締結を交わすべきでないと考え、見解を伺う。



現在の市庁舎・議場棟

市長 現在、基本構想の策定の途中であり、目安として示したのが20億円という上限の額である。締結の予定は撤回しない。
議員 どんぐり山を廃止すべきでないという市民の声は今も根強い。継続させるべきではないか。
市長 平成30年第1回三鷹市議会定例会において廃止に係る条例が可決されてお

未来志向の視点に立ち 多様な市民参加と協働を

自由民主クラブ 渥美 典尚 幹事長



議員 平成31年度の本市の施政方針には、国連が掲げる国際目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に即した取り組みを進めるとある。SDGsについての市長の認識を伺う。
市長 持続可能で誰一人取り残さない未来を創るためには、基礎自治体が草の根の取り組みを進めていくことが大切だと認識する。

議員 読売新聞に日本史研究家の磯田道史氏の「防災とは嫌われる決断」というタイトルのコラムが掲載された。この言葉についてどう受け止めるか伺う。
市長 市民の財産・生命を守るため、嫌われる決断と想われても、積極的かつ継続的に防災対策の推進を図る必要があると認識する。
議員 市庁舎・議場棟等の建て替え事業の課題については、市民に分かりやすく説明をする義務があると考え、今後の対応を伺う。
議員 少子高齢化、貧困、孤独死など、現代社会の問題を解決すべく、一人一人に寄り添った支援が行政に求められている。施政方針で誰一人として取り残さない三鷹の未来を創るとしているが、どう展開するのか。

三鷹に住んで良かったと思えるまちづくりを

公明党 赤松 大一 副幹事長



議員 少子高齢化、貧困、孤独死など、現代社会の問題を解決すべく、一人一人に寄り添った支援が行政に求められている。施政方針で誰一人として取り残さない三鷹の未来を創るとしているが、どう展開するのか。



三鷹市食べきり運動協力店ステッカーなど

市民生活の実態把握と 多様性を重視した施策を

民主緑風会 岩見 大三 幹事長



議員 平成30年6月に実施した市民満足度・意向調査に係る分析結果と信頼度、満足度向上及び課題認識について所見を伺う。
市長 全体的に一定の評価があったものと受け止めているが、プロジェクトの中には満足度が下がっているものもある。限られた財源で最大限の効果が出るよう工夫をこらしていきたい。
議員 急激な高齢化と少子化等に対応するための費用に関する収支見通しと新たな財政収入について伺う。

市庁舎建て替え時期は 市民意見を踏まえ再考せよ

日本共産党 大城 美幸 幹事長



議員 本市庁舎は建物の耐震強度から見て、コンクリートの耐用年数の60年から更に数十年持つとの建築士の見解がある。現在の庁舎を大切に使い、100年持たせることが重要ではないか。
市長 発災時、迅速に対応するには庁舎機能の移転のリスクを避ける必要がある、建て替えによる耐震性の向上が求められている。
議員 子どもの医療費助成の所得制限を、小学生について撤廃することは歓迎だ。一方で、昨年、18歳までの窓口負担も含めた完全無償化を要望したところだ。せめて中学生までの所得制限を撤廃できないか伺う。
市長 社会保障関連経費が増高する中、持続可能な取り組みとして、小学生までの所得制限を撤廃とした。
議員 どんぐり山廃止後の施設の活用について、民間事業者が譲渡することは考えられないか。見解を伺う。
健康福祉部調整担当部長 模様が市議会ホームページでご覧になれます。

もに、意見を聞きながら、それを反映していくことが重要なものと考えます。
議員 LGBTへの取り組み等、多様性を重んじる本市のあり方について伺う。
市長 議会や市民と共に考え、議論し多様性を重んじる本市の望ましい未来へと進んでいきたい。
その他の質問 介護人材の確保／主権者教育についてなど